

2023年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

鍼灸学科

1年生

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	人文科学1(国語表現)	
赤塚 史	専門学校での国語関連科目講師		
必修	2単位（30時間）	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 専門科目の学習を始めるにあたり、いま一度「読むこと・書くこと」を中心とした国語基礎力を総点検する。また、社会人として適切な言葉の運用ができるよう、必要な知識を身に着ける。自身の知識や思考を誤解なく相手に伝えるためには、どのような言葉で、どのような手順で伝えるのがよいのか、実践的に学ぶ。			
〈到達目標〉 「わかりやすい文章」がどのように作られるのかを理解し、自分でも作成できるようになる。様々な文章に触れ、読んで理解し、知識を蓄える。			
2. 授業内容			
第1回 授業ガイダンスと自己紹介文の作成 第2回 文の書き方①(一文一義、主語述語の位置など) 第3回 文の書き方②(話し言葉と書き言葉、読点など) 第4回 文章構成の仕方 第5回 「じゃんけん」説明文を書く 第6回 意見文の書き方 第7回 物語を〈読む〉 第8回 一般教養を身につける①(慣用句、難読地名など) 第9回 一般教養を身につける②（日本の習慣など) 第10回 一般教養を身に着ける③(間違いやすい漢字など) 第11回 エッセイを〈読む〉 第12回 敬語をマスターする① 第13回 敬語をマスターする② 第14回 日本の古典に触れる 第15回 意見文に〈反論する〉			
3. 履修上の注意			
鍼灸の専門科目と直接的には関係しない授業だが、資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習や事前準備が必要な場合は、その都度指示をする。			
5. 教科書			
教員が資料（プリント等）を準備し、授業時に配布する。			
6. 参考書			
適宜紹介する。			
7. 成績評価の方法			
平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価)			
試験(レポート形式)			
8. その他			
授業スケジュールは、学生の学習到達度を考慮し調整することがある。			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	人文科学2(コミュニケーション)	
赤塚 史	専門学校での国語関連科目講師		
必修	2単位 (30時間)	講義	1年次
1. 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 医療従事者として責任をもって患者と向き合い、同僚と良好な関係を築くために必要なコミュニケーションを学ぶ。例えば、〈医療従事者と患者〉間の情報伝達と、〈医療従事者同士〉での情報伝達とでは、相手に合わせて伝え方を変える必要があるだろう。また、相手の世代や言語環境への留意も必要となろう。社会人として、また専門職の担い手として、相手にわかりやすい説明をし、相手が正しく理解できる文章を作成し、相手の話をきちんと聞くことができるよう、言葉の運用方法を見直す。 〈到達目標〉 医療従事者として正しく十分な説明ができるよう、自身の言葉の使い方を見直し、修正できるようになる。インフォームド・コンセントへの認識を深める。			
2. 授業内容			
第1回	社会人としての「コミュニケーション」		
第2回	相手に伝わる表現を探す①		
第3回	相手に伝わる表現を探す②		
第4回	伝え方のバリエーションを増やす①		
第5回	伝え方のバリエーションを増やす②		
第6回	対象に合わせた掲示物を考える		
第7回	場面に応じた表現を使う①		
第8回	場面に応じた表現を使う②		
第9回	聞き書きの練習をする①		
第10回	聞き書きの練習をする②		
第11回	オノマトペを適切に使う		
第12回	電話のかけ方、メールの書き方をマスターする		
第13回	相手に伝わる「説明」を考える		
第14回	相手に伝わる「紹介文」を考える		
第15回	相手に伝わる「自己PR」を考える		
3. 履修上の注意			
鍼灸の専門科目と直接的には関係しない授業だが、資格取得のために履修が求められている科目である。学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。			
4. 準備学習（予習・復習等）の内容			
基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習や事前準備が必要な場合は、その都度指示をする。			
5. 教科書			
教員が資料（プリント等）を準備し、授業時に配布する。			
6. 参考書			
適宜紹介する。			
7. 成績評価の方法			
平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み評価) 試験(レポート形式)			
8. その他			
授業スケジュールは、学生の学習到達度を考慮し調整することがある。			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	法学入門(社会科学1)	
平 仁	税理士・大学で法学、経営学、会計学等の指導歴有		
必修	2単位（30時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 社会人として適正に法律を遵守することは不可欠である。またトラブルに巻き込まれないよう、法的知識を身につけておくことは職業人として必須項目である。講義の前段は①法とは何か、②法律の体系、③法秩序の原則、④法令の解釈の仕方を理解する。業法を通じて、日本国憲法の正しい理解と、民法、労働法の基礎を学習することが主たる講義内容である。 〈到達目標〉 法的素養、中でも正しい法解釈を習得することを第一目標とするが、叶うならば法的思考力の獲得を最終的な目標としたい。			
2 授業内容			
第1回	日本国憲法（人権）（レジュメを使用）		
第2回	業務内容、免許等		
第3回	施術		
第4回	療養費		
第5回	交通事故、労災		
第6回	患者トラブル		
第7回	情報管理		
第8回	広告		
第9回	人事労務		
第10回	定期試験		
3 履修上の注意			
東洋医学経営に関する法学書は類書を見ないため、柔整師向けのテキストを使用するほか、テキストに記載がない憲法等についてはレジュメにより補完する。授業は休むことなく出席することを求めます。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習は特に求めないが、授業後、ネット検索等を含め、情報を集め、テキストをよく読み返すこと。法律は知らないと後で馬鹿を見ることになりますので、その点をご注意下さい。			
5 教科書			
高津陽介『柔道整復師が知っておくべき法的知識Q＆A』日本法令（令和4年）			
6 参考書			
特になし			
7 成績評価の方法			
テキストやレジュメ、ノート等持込可の記述式テストを最終授業時に実施（70点満点）。残り30点は、通常授業の参加態度等から判断します。			
8 その他			

基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	自然科学(人体の構造)	
鈴木 誠	鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動		
必修	4単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 人体の構造を学ぶ上で、生物学の基本を理解することはとても重要である。この時間は「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学ぶ。 〈到達目標〉 「生物とは何か」という問いから始まり、生物の誕生と進化、細胞学や遺伝学、発生学について学びながら人体の構造上の特徴を理解することが目標となる。			
2 授業内容			
1回	人体の構造総論	16回	7) 心臓の血管 3. 動脈系 1) 肺循環の動脈系
2回	第1章 人体の構成 1. 細胞 1) 細胞の構造	17回	2) 体循環の動脈系
3回	2) 細胞分裂と遺伝子	18回	2) 体循環の動脈系 4. 静脈系
4回	2. 組織 1) 上皮組織 2) 結合組織	19回	5. 胎児循環 6. リンパ系
5回	2) 結合組織	20回	第3章 呼吸器系 1. 消化管の基本構造 1) 鼻腔
6回	3) 筋組織 4) 神経組織	21回	2) 咽頭 3) 喉頭 1. 気管
7回	3. 体表構造	22回	2. 気管支 3. 肺
8回	4. 人体の区分と方向 1) 人体の区分	23回	4. 胸膜
9回	2) 人体の切断面と方向	24回	第4章 消化器系 1. 消化管の基本構造 2. 口腔
10回	第2章 循環器系総論	25回	3) 舌 4) 歯 5) 唾液腺
11回	1. 血管系 1) 循環の概要	26回	3. 食道 4. 胃
12回	2) 血管の構造 3) 吻合 4) 門脈	27回	6. 小腸 1) 小腸の区分 2 小腸の組織構造と機能
13回	2. 心臓 1) 心臓の位置 2) 心膜 3) 心臓の壁	28回	7. 大腸 1) 大腸の区分 2) 大腸の組織構造と機能
14回	定期試験1	29回	8. 肝臓 9. 胆嚢 1 0・膵臓 1 1. 腹膜
15回	4) 心房と心室 5) 心臓の弁膜 6) 刺激伝導系	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
前回の授業内容の復習をすること。			
5 教科書			
「解剖学 第2版」 東洋療法学校協会編 （医歯薬出版株式会社）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験1と定期試験2それぞれで60％以上を合格とする。			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学1	
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について基礎的な解剖学の知識を習得する。 〈到達目標〉 この講義では、神経系（中枢神経）、感覚器系、内分泌系について、基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目標に学習する。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション・【第8章神経系】概要	16回	末梢神経：脊髄神経②
2回	中枢神経①	17回	末梢神経：脊髄神経③
3回	中枢神経②	18回	末梢神経：脊髄神経④
4回	中枢神経③	19回	末梢神経：脊髄神経⑤
5回	中枢神経④	20回	末梢神経：脊髄神経⑥
6回	中枢神経⑤	21回	末梢神経：脊髄神経⑦
7回	伝導路①	22回	【第9章感覚器】概要・視覚器
8回	伝導路②	23回	平衡聴覚器①
9回	末梢神経：脳神経①	24回	平衡聴覚器②
10回	末梢神経：脳神経②	25回	味覚器・嗅覚器
11回	末梢神経：脳神経③	26回	【第7章内分泌器】概要・内分泌器①
12回	末梢神経：脳神経④	27回	内分泌器②
13回	末梢神経：脳神経⑤	28回	内分泌器③
14回	定期試験1	29回	総復習
15回	末梢神経：脊髄神経①	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎むこと、机上に飲食物やスマホを置かない、その他学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の冒頭に確認テストを行うので前回の授業内容について見直して臨むこと			
5 教科書			
解剖学　〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
6 参考書			
プロメテウス解剖学アトラス(医学書院)			
7 成績評価の方法			
定期試験60%以上を合格とする。小テストを行った場合、成績に加味する。			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学2	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験　現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 解剖学は人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識のうち、骨格系について習得することで人体の構造を学習する。 〈到達目標〉 鍼灸臨床において基本となる筋骨格系を理解し、安全な刺激を施せるようにする。 また、筋骨格系を理解することで、鍼灸臨床で遭遇する様々な疾患や障害を理解することができる。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション、骨格系総論	16回	頭蓋骨（脳頭蓋）
2回	体幹骨格（脊柱）	17回	頭蓋骨（脳頭蓋）
3回	体幹骨格（脊柱）	18回	頭蓋骨（脳頭蓋）
4回	体幹骨格（胸郭）	19回	頭蓋骨（顔面頭蓋）
5回	体幹骨格（胸郭）	20回	頭蓋骨（顔面頭蓋）
6回	上肢骨格（上肢帯、上腕の骨）	21回	筋系総論
7回	上肢骨格（上肢帯、上腕の骨）	22回	体幹の筋（胸筋）
8回	上肢骨格（前腕の骨）	23回	体幹の筋（胸筋）
9回	上肢骨格（手の骨）	24回	体幹の筋（胸筋）
10回	下肢骨格（下肢帯の骨）	25回	体幹の筋（腹筋）
11回	下肢骨格（大腿の骨）	26回	体幹の筋（腹筋）
12回	下肢骨格（下腿の骨）	27回	体幹の筋（背筋）
13回	下肢骨格（下腿の骨）	28回	体幹の筋（背筋）
14回	下肢骨格（足部の骨）	29回	体幹の筋（背筋）
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
予習復習を必ず行い、知識の定着を心掛けること。			
5 教科書			
解剖学〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
筆記試験（定期試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。小テストがあった場合は、その得点を成績に加味する。課題があった場合は提出をもって、口頭試問があった場合は合格をもって試験の受験を許可する。）			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能		解剖学3	
金 世野	鍼灸整骨院の実務経験			
必修	2単位（60時間）		講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 解剖学は、人体を理解する上では最も基礎的な内容である。正常な人体構造を理解した上でなければ、病的な状態も理解することは難しい。基礎的な解剖学の知識を習得することで人体の構造を理解し、鍼灸臨床で遭遇する様々な症状の患者に対応できるようにすることを目的とする。また運動学では、人間の身体運動の構造や性質を物理学の力学の領域を用いて系統的に応用し、解剖学と関連させて学ぶことで、関節運動を深く理解することができる。関節障害などの症状に対応できるようにする。 〈到達目標〉 この講義では、運動学、解剖学（呼吸器系、泌尿器系、生殖器系）について、その知識を身に付けることを目標に学習する。				
2 授業内容				
1回	泌尿器系（1）腎臓の構造	16回	運動学基礎（6）上肢（自由上肢）の筋	
2回	泌尿器系（2）腎臓の構造	17回	運動学基礎（7）上肢（自由上肢）の筋	
3回	泌尿器系（3）尿管～膀胱の構造/尿路の構造	18回	運動学基礎（8）下肢（下肢帯）の筋	
4回	泌尿器系（4）尿路の構造	19回	運動学基礎（9）下肢（下肢帯）の筋	
5回	生殖器系（1）男性生殖器	20回	運動学基礎（10）下肢（自由下肢）の筋	
6回	生殖器系（2）男性生殖器	21回	運動学基礎（11）下肢（自由下肢）の筋	
7回	生殖器系（3）女性生殖器	22回	運動学基礎（12）下肢（自由下肢）の筋	
8回	生殖器系（4）女性生殖器	23回	運動学基礎（13）肩関節	
9回	運動学基礎（1）筋総論	24回	運動学基礎（14）肘関節	
10回	運動学基礎（2）体幹（頭頸部）の筋	25回	運動学基礎（15）手関節	
11回	運動学基礎（3）体幹（頭頸部）の筋	26回	運動学基礎（16）股関節	
12回	運動学基礎（4）上肢（上肢帯）の筋	27回	運動学基礎（17）膝関節	
13回	運動学基礎（5）上肢（自由上肢）の筋	28回	運動学基礎（18）足関節	
14回	定期試験1	29回	復習	
15回	総復習	30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
医療従事者において基礎となる大切な科目の為、居眠りなどせず、積極的に参加すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、要点を見直し出来るようにすること。				
5 教科書				
解剖学（医歯薬出版株式会社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績と小テストの結果も考慮して単位を認める。				
8 その他				

専門基礎分野	人体の構造と機能		生理学1	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験			
必修	2単位（60時間）		講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学ぶ。それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。 〈到達目標〉 生理学の基礎となる事柄について学習した上で、循環・呼吸・消化および吸収の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。				
2 授業内容				
1回	生理学の基礎①細胞の構造と機能	16回	呼吸①呼吸器概要	
2回	生理学の基礎②細胞小器官	17回	呼吸②呼吸運動	
3回	生理学の基礎③体液の組成と働き	18回	呼吸③肺機能	
4回	生理学の基礎④物質移動	19回	呼吸④換気とガス交換	
5回	循環①血液の組成と働き、赤血球	20回	呼吸⑤呼吸の反射性調節	
6回	循環②白血球、血小板、血漿	21回	消化と吸収①消化器系の構造と機能	
7回	循環③止血、血液型	22回	消化と吸収②消化管の運動	
8回	循環④心臓血管系	23回	消化と吸収③消化液と消化酵素（1）	
9回	循環⑤心臓の構造と働き	24回	消化と吸収④消化液と消化酵素（2）	
10回	循環⑥心機能の調節	25回	消化と吸収⑤消化管ホルモン	
11回	循環⑦血液循環	26回	消化と吸収⑥吸収	
12回	循環⑧循環調節	27回	消化と吸収⑦肝臓の働き	
13回	循環⑨特殊な部位の循環、リンパ系	28回	消化と吸収⑧まとめ	
14回	前半総復習	29回	後半総復習	
15回	定期試験1	30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
自ら学ぼうとする積極的な態度で臨むこと。生理学はのちに学習する臨床科目の礎となる科目である。わからないところ・疑問に思った点はそのままにせず質問するなどして理解に努めること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の最初に前回の学習内容の確認を4択形式の問題で行うので、しっかり復習をして臨むこと。 4択問題の正答率が低い者には課題を課す。				
5 教科書				
公益社団法人 東洋療法学校協会 編 『生理学 第3版』 医歯薬出版株式会社				
6 参考書				
生理学Ⅰ用に作成したサブテキストを使用する。				
7 成績評価の方法				
章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を併せて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。				
8 その他				

専門基礎分野	人体の構造と機能	生理学2	
東垣可奈絵	訪問鍼灸、鍼灸整骨院で鍼灸・あん摩マッサージ施術の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識を学習する。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。また、それらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。 〈到達目標〉 この時間では、主に神経系・筋・運動・感覚の各機能について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。			
2 授業内容			
1回	神経基礎	16回	筋
2回	神経基礎	17回	筋
3回	神経基礎	18回	筋
4回	神経基礎	19回	運動
5回	中枢神経	20回	運動
6回	中枢神経	21回	運動
7回	中枢神経	22回	運動
8回	中枢神経	23回	運動
9回	中枢神経	24回	感覚
10回	末梢神経	25回	感覚
11回	末梢神経	26回	感覚
12回	自律神経	27回	感覚
13回	自律神経	28回	感覚
14回	自律神経	29回	感覚
15回	筋	30回	感覚
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
基礎科目として重要な科目であるため、毎授業の予習と復習を怠らないこと。			
5 教科書			
生理学第3版 公益社団法人 東洋療法学校協会編			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
各試験で60点以上の成績をもって合格とする。 ※場合により、小テストを実施しその結果と受講態度・出席状況を加味する。			
8 その他			

専門基礎分野	人体の構造と機能		生理学3	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験			
必修	2単位(60時間)		講義	1 年次
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 人体における生命現象の機能・メカニズムに関する知識は鍼灸師として必ず身に付けなければならないものである。これらの知識は正常な人体の働きを理解するためだけでなく、疾病の成り立ちを理解するためにも必要となる。またそれらを学ぶことは鍼灸が生体にどのような変化をもたらすかを理解することにもつながる。この時間では、主に代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調について学び、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得することを目的とする。 〈到達目標〉 生理学の代謝・体温・排泄・内分泌・生体の防御機構・身体活動の協調の分野について、それらが人体の機能においてどのような役割を果たしているのかを修得する。				
2 授業内容				
1回	代謝①	食品と栄養素	16回	内分泌① ホルモンの特徴
2回	代謝②	糖質の代謝	17回	内分泌② 視床下部と下垂体のホルモン
3回	代謝③	脂質の代謝	18回	内分泌③ 甲状腺・副甲状腺のホルモン
4回	代謝④	タンパク質の代謝	19回	内分泌④ 膵臓のホルモン
5回	代謝⑤	ビタミン・無機質の代謝	20回	内分泌⑤ 副腎のホルモン
6回	代謝のまとめ		21回	内分泌⑥ 性ホルモン・その他のホルモン
7回	体温①	体温調節	22回	内分泌まとめ
8回	体温②	体熱の産生と放散	23回	生殖・成長と老化① 生殖
9回	体温③	発汗とその調節 体温調節の障害	24回	生殖・成長と老化② 成長・老化
10回	体温まとめ、排泄① 腎臓の働き 腎循環		25回	生体の防御機構①生体の防御機構
11回	排泄②	尿の生成	26回	生体の防御機構②白血球の働き
12回	排泄③	腎臓と体液の調節	27回	生体の防御機構③免疫反応、アレルギー
13回	排泄④	蓄尿と排尿	28回	生体の防御機構 まとめ
14回	排泄のまとめ		29回	身体活動の協調
15回	定期試験1		30回	定期試験2
3 履修上の注意				
自ら学ぼうとする積極的な態度で臨むこと。生理学のうちに学習する臨床科目の礎となる科目である。わからないところ・疑問に思った点はそのままにせず質問するなどして理解に努めること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業の最初に前回の学習内容の確認を 4 択形式の問題で行うので、しっかり復習をして臨むこと。 4 択問題の正答率が低い者には課題を課す。				
5 教科書				
生理学（東洋療法学校協会編）				
6 参考書				
生理学Ⅲ用に作成したサブテキストを使用する。				
7 成績評価の方法				
章のまとめの際に行う確認テスト、定期試験を併せて評価する。指定された課題が提出されていない場合は評価取り消しとする。				
8 その他				

分野	基礎はり学、基礎きゅう学	東洋医学概論(東洋医学概論Ⅰ)	
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学は鍼灸医学の根幹をなす学問である。この講義の目的は東洋医学における人体の捉え方や考え方を身近な事例を通して学び、西洋医学と異なった視点で東洋医学の世界観を理解することにある。 鍼灸臨床において東洋医学的に病態を把握するためには、東洋医学的な生理観および病理観の知識が欠かせない。そこでこの時間では生理事物質（精・気・血・津液）および臓腑の生理と病理を関連する要素ごとに学んでいく。 〈到達目標〉 最終的には、東洋医学による診断・治療を行うための基礎知識を身に付けることを到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	ガイダンス	16回	蔵象⑥心と小腸
2回	生理事物質(精・気・血・津液)①	17回	蔵象⑦脾
3回	生理事物質(精・気・血・津液)②	18回	蔵象⑧脾
4回	生理事物質(精・気・血・津液)③	19回	蔵象⑨脾と胃
5回	生理事物質(精・気・血・津液)④	20回	蔵象⑩肺
6回	生理事物質の相互関係	21回	蔵象⑪肺
7回	神の生理と病理	22回	蔵象⑫肺と大腸
8回	人体における陰陽①	23回	蔵象⑬腎
9回	人体における陰陽②	24回	蔵象⑭腎
10回	蔵象①	25回	蔵象⑮腎と膀胱
11回	蔵象②肝	26回	五臓の相互関係
12回	蔵象③肝	27回	気機の相互関係
13回	蔵象④肝と胆	28回	経絡病証
14回	定期試験1	29回	総復習
15回	蔵象⑤心	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
私語は慎むこと、机上に飲食物やスマホを置かない、その他学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
5 教科書			
東洋医学概論			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
定期試験60%以上を合格とする。小テストを行った場合、成績に加味する。			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	経絡経穴概論1	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、現在は訪問治療を行う。		
必修	2単位(60時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで、鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。習得する範囲としては、十四経脈のうち、督脈、任脈、手太陰肺経、手陽明大腸経、足陽明胃経、足太陰脾経、手少陰心経、手太陽小腸経、足太陽膀胱経、手厥陰心包経までとする。 〈到達目標〉 この講義では、実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴できるレベルに到達することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション・経絡・経穴の概要	16回	足陽明胃経(講義) 全部
2回	経絡・経穴の概要	17回	足陽明胃経(取穴)
3回	体表指標、骨度法	18回	足陽明胃経(取穴)
4回	同身寸法、要穴の概要①	19回	足太陰脾経(講義)
5回	要穴の概要①	20回	足太陰脾経、手少陰心経・手厥陰心包経
6回	要穴の概要②	21回	手少陰心経・手厥陰心包経
7回	督脈背部(講義)	22回	手太陽小腸経
8回	督脈背部(取穴)	23回	脾経・心経(取穴)
9回	督脈・任脈(講義)	24回	手太陽小腸経・心包経(取穴)
10回	任脈・手太陰肺経(講義)	25回	足太陽膀胱経(講義)
11回	手陽明大腸経(講義)	26回	足太陽膀胱経(講義)
12回	督脈・任脈(取穴)	27回	足太陽膀胱経(取穴)
13回	手太陰肺経・手陽明大腸経(取穴)	28回	足太陽膀胱経(取穴)
14回	足陽明胃経(講義) 顔面部まで	29回	定期試験2取穴
15回	定期試験1	30回	定期試験2筆記
3 履修上の注意			
取穴実技においては実技細則に準拠すること。その他、学則に従い受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。			
5 教科書			
新版 経絡経穴概論 （医道の日本社）			
6 参考書			
鍼灸学 基礎編 （東洋学術出版社）			
7 成績評価の方法			
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績を合格とする。小テスト成績、課題の提出状況、授業態度を成績評価に加味する。（※ただし定期試験2は、期日までに暗唱試験に合格しなければ評価を取消す。）			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	経絡経穴概論2	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、現在は訪問治療を行う。		
必修	1単位(30時間)	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 経絡・経穴は、鍼灸の重要な要素である。鍼灸施術を行う際の反応点・診断点・治療点となるものであるため、鍼灸を学ぶ上でもその中核をなすものである。経絡経穴の概要、また取穴する際に必要な知識である、骨度法・体表指標、また治療方法の決定に重要な役割を持つ要穴について知識を深めることで鍼灸臨床に必要な基礎知識を習得する。また、経穴にはそれぞれ名称があり、由来を知ること経穴を理解することで大切な要素であるため、昔の解剖学的な名称などの知識を深める。習得する範囲としては、十四経脈のうちの手厥陰心包経、手少陽三焦経、足少陽胆経、足厥陰肝経までとする。 〈到達目標〉 実際に経穴を取穴することが治療にもつながることから、各経脈ごとに、取穴実習を織り交ぜながら講義を行い、各自が確実に取穴出来るレベルに到達することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	講義概要		
2回	足の少陰腎経(講義)		
3回	足の少陰腎経(取穴)		
4回	手の少陽三焦経(講義)		
5回	手の少陽三焦経(取穴)		
6回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
7回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(講義)		
8回	足の少陽胆経(体幹・下肢)(取穴)		
9回	足の少陽胆経(頭部)(講義・取穴)		
10回	足厥陰肝経(講義・取穴)		
11回	取穴総まとめ		
12回	取穴総まとめ		
13回	取穴総まとめ		
14回	定期試験取穴		
15回	定期試験筆記		
3 履修上の注意			
取穴実技においては実技細則に遵守すること。実技細則違反は受講を認めない。 その他、学則に従い受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
毎授業範囲の予習とサブテキストへの書き込みをしておくこと。			
5 教科書			
新版 経絡経穴概論 （医道の日本社）			
6 参考書			
鍼灸学 基礎編 （東洋学術出版社）			
7 成績評価の方法			
定期試験で60％以上を合格点とする。小テスト成績、課題の提出状況、授業態度を成績評価に加味する。 暗唱試験の合格者に対し、試験の受験資格を与える。			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	はりきゅう理論1	
木下 立彦	開業鍼灸師		
必修	2単位（40時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸施術を行う上ではりきゅうの概要、用いる器具、技術、衛生的処置などについての基礎的な知識は欠かせないものである。この科目においては古来より行われてきた鍼灸の流れを踏まえたうえではりきゅうの概要、道具や手技について学んでいくことによって、鍼灸臨床を行っていくうえで必要な基礎知識を習得する。また、臨床上起こり得る有害事象に対するリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得することを目標とする。 〈到達目標〉 鍼灸に用いる器具、技術、衛生的処置などについて鍼灸施術を行うのに必要な基礎知識を身につける。また、臨床上起こり得る有害事象に対するリスク管理の重要性について理解し、対応と予防方法に関しての知識を習得する。			
2 授業内容			
1回	概論	16回	まとめ①
2回	鍼の基礎知識①	17回	定期試験①
3回	鍼の基礎知識②	18回	灸の基礎知識①
4回	鍼の基礎知識③	19回	灸の基礎知識②
5回	鍼の基礎知識④	20回	灸術の種類①
6回	鍼の基礎知識⑤	21回	灸術の種類②
7回	刺鍼の方式と術式①	22回	鍼灸療法の刺激量と感受性、適応と禁忌
8回	刺鍼の方式と術式②	23回	リスク管理の基本①
9回	刺鍼の方式と術式③	24回	リスク管理の基本②
10回	刺鍼の方式と術式④	25回	鍼療法の過誤と副作用①
11回	特殊鍼法①	26回	鍼療法の過誤と副作用②
12回	特殊鍼法②	27回	鍼療法と過誤と副作用③
13回	特殊鍼法③	28回	灸療法と過誤と副作用
14回	特殊鍼法④	29回	定期試験②
15回	特殊鍼法⑤		
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内で確認テスト適宜行う予定			
5 教科書			
はりきゅう理論（東洋療法学校協会編）			
6 参考書			
鍼灸安全ガイドライン			
7 成績評価の方法			
1、定期試験①60％・定期試験②60％で単位認知する 2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある			
8 その他			
シラバスは状況により変更することがあります その時は適宜お伝えします			

専門分野	臨床はり学、臨床きゅう学	臨床はりきゅう論1(東洋医学概論Ⅱ)	
高松 巧	鍼灸接骨院の実務経験		
必修	2 単位（60時間）	講義	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学は鍼灸医学の根幹をなす学問である。この講義の目的は東洋医学における人体の捉え方や考え方を身近な事例を通して学び、西洋医学と異なった視点で東洋医学の世界観を理解することにある。この時間では「東洋医学概論Ⅰ」で学習した生体物質（精・気・血・津液）および臓腑の生理と病理をもとに、八綱病証や気血病証、臓腑病証、経絡病証など病証学の応用を主体に学習する。			
〈到達目標〉 東洋医学知識を応用することで、鍼灸臨床で応対する患者モデルをイメージできる能力を身に付けることが最終的な到達目標となる。			
2 授業内容			
1回	陰陽学説の基本内容①	16回	臓腑弁証【肝】
2回	東洋医学における陰陽学説の運用	17回	臓腑弁証【肝】
3回	五行学説の基本内容	18回	臓腑弁証【心】
4回	東洋医学における五行学説の運用①	19回	臓腑弁証【心】
5回	東洋医学における五行学説の運用②	20回	臓腑弁証【脾】
6回	病因①	21回	臓腑弁証【脾】
7回	病因②	22回	臓腑弁証【肺】
8回	病因③	23回	臓腑弁証【肺】
9回	病機①	24回	臓腑弁証【腎】
10回	病機②	25回	臓腑弁証【腎】
11回	病機③	26回	臓腑弁証【複合弁証】
12回	八綱弁証①	27回	臓腑弁証【複合弁証】
13回	八綱弁証②	28回	古代刺法
14回	八綱弁証③	29回	経絡弁証・まとめ
15回	定期試験①	30回	定期試験②
3 履修上の注意			
授業開始前に着席しておくこと。スマートフォン等の電子機器の使用不可授業に関係のない私語を慎むこと。その他学則に順守する。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業後の復習が重要になるその際、プリントを活用すると効率的である。			
5 教科書			
新版 東洋医学概論 医道の日本社			
6 参考書			
中医学の仕組みがわかる基礎講義			
7 成績評価の方法			
定期試験①と定期試験②を行いどちらも60パーセント以上を合格とする。			
8 その他			

専門分野	実習	はりきゅう実技 1 A(鍼実技)	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験、現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	2単位（60時間）	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼施術は刺鍼する位置、角度、深さは、施術者の思った部分に刺鍼できることは基本であるが、練習が必要である。 この講義では、鍼の基本操作（消毒、刺鍼の仕方など）を習得し、身体各部への刺鍼を行う。また、医療事故に対する留意点を認識し、安全な刺鍼操作を身に付ける。 〈到達目標〉 安全な刺入深度、刺入方向での刺鍼をすることができ、また、ステンレス鍼、銀鍼を操作できるようにする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション、片手挿管	16回	銀鍼、肩、腰部刺鍼
2回	切皮、刺鍼練習機、自己下腿刺鍼	17回	銀鍼、肩背部刺鍼
3回	対人刺鍼、直刺	18回	銀鍼、膝刺鍼
4回	対人刺鍼、斜刺	19回	背部俞穴、夾脊穴
5回	対人刺鍼、横刺	20回	最終評価
6回	下腿刺鍼、前腕刺鍼		
7回	十七手技、腰部刺鍼		
8回	十七手技、腰部刺鍼		
9回	十七手技、手・足・腰部刺鍼		
10回	手・足・腰・頸部刺鍼		
11回	銀鍼、背部、頭部刺鍼		
12回	銀鍼、背部刺鍼		
13回	銀鍼、上背部刺鍼		
14回	銀鍼、肩背部刺鍼		
15回	銀鍼、肩背部刺鍼		
3 履修上の注意			
身だしなみを整え、危険を伴う実習であることを常に心がけること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
自宅での練習を必ず行うこと			
5 教科書			
はりきゅう実技〈基礎編〉（医道の日本社）			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
「実技細則」違反は出席を認めない。試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。授業態度を評価に加味する。			
試験までに片手挿管法10回/分、及びステンレス鍼練習器 B 刺鍼（1分以内）ができた者に受験資格を与える。			
8 その他			

専門分野	実習	はりきゅう実技ⅠB(灸実技)		
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、現在は訪問治療を行う。			
必修	2 単位(60時間)	実技	1年次	
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 灸術の基本的な技術を学ぶ。艾炷の形や大きさ、ひねり方、点火など、基本的な動作を身につけることを目標とする。また、施術者としての身だしなみや言葉遣いなど基本を学び身につける。 〈到達目標〉 施灸を行う対象物を板、竹筒、紙など、様々なもので基礎的な力を身につけ、人体においても正確でかつスムーズな施灸が出来ることを最終目標とする。				
2 授業内容				
1回	手洗い 施術上の注意 艾の種類 灸術の種類 艾ひねり	16回	基礎練習	対人腎俞・大腸俞
2回	米粒大艾ひねり・線香のつけ方・点火	17回	基礎練習	対人身柱・至陽・肺俞
3回	板上施灸米粒大、点火、艾ひねり&エア一点火、対人施灸デモ	18回	基礎練習	対人中脘・天枢・気海
4回	板上施灸 米粒・半米粒大 灸熱緩和 自己下腿施灸	19回	基礎練習	胃の六つ灸
5回	板上施灸 米粒・半米粒大 互いに評価	20回	基礎練習	対人失眠
6回	板上施灸 米粒・半米粒大 互いに評価	21回	基礎練習	対人百会
7回	板上施灸 米粒・半米粒大 紙上施灸、対人失眠	22回	基礎練習	対人百会
8回	板上施灸 米粒・半米粒大、自己下腿・対人失眠	23回	基礎練習	知熱灸
9回	基礎練習 八分灸 自己足三里	24回	基礎練習	知熱灸
10回	基礎練習 八分灸 対人足三里、曲池	25回	基礎練習	プレテスト
11回	基礎練習 竹筒施灸	26回	基礎練習	肺・大腸経 五俞・五行 8分灸
12回	基礎練習 対人施灸失眠	27回	基礎練習	胃・脾経 五俞・五行 8分灸
13回	基礎練習 互いに評価（プレテスト）	28回	基礎練習	心・小腸経 五俞・五行 8分灸
14回	基礎練習 対人施灸足三里	29回	基礎練習	膀胱・心包経 五俞・五行 8分灸
15回	定期試験1	30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
実技細則を遵守すること。実技は怪我・事故を起こす危険があるため、私語を慎み、担当教員の指示に従うこと。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
自宅・実技室開放日などを利用し、練習をすること。				
5 教科書				
はりきゅう実技（基礎編）第2版（東洋療法学校協会編）（医道の日本社）				
6 参考書				
7 成績評価の方法				
①各試験で60％以上の点数を合格とする。③課題未提出者は評価を取り消す。③受講態度を成績評価に加味する。 ④「実技細則」違反は出席を認めない。				
8 その他				

専門分野	実習	はりきゅう実技 1 C(鍼灸基礎実技)	
高松 巧	鍼灸接骨院の実務経験		
必修	2単位(60時間)	実技	1年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼実技、灸実技でそれぞれ習得した鍼と灸の基本操作と技術をふまえ、鍼術・灸術の基本手技を総合的に身につける。 鍼に関しては、刺鍼対象の経穴に目的の深度・角度に安全かつ適切に刺鍼できる技術を身につける。また、灸に関しては、透熱灸・八分灸以外の施灸方法を学ぶことで様々な灸法の基本技術を習得する。 〈到達目標〉 治療経穴をスムーズかつ正確に取穴ができること、身体各部への刺鍼・施灸が安全かつ正確に行えることを到達目標とする。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション	16回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸1
2回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(上肢・下肢)	17回	鍼灸基礎練習、対人刺鍼・施灸2
3回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(上肢・下肢)	18回	鍼灸基礎練習、総復習1
4回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(腹部)	19回	鍼灸基礎練習、総復習2
5回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(腹部)	20回	定期試験②
6回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(背部)		
7回	鍼灸基礎練習、部位別施灸(背部)胃の六つ灸		
8回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頸肩部)		
9回	鍼灸基礎練習、部位別刺鍼(頭顔面部)		
10回	定期試験①		
11回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
12回	鍼灸基礎練習、中国鍼(両手切皮)		
13回	鍼灸基礎練習、中国鍼(片手切皮)		
14回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)1		
15回	鍼灸基礎練習、中国鍼(腰部)2		
3 履修上の注意			
実技細則違反をしたものは授業の履修を認めない。 他者の命を扱うこと自覚し、教員の指示に従って授業に取り組むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
毎授業での課題提出と自己練習を欠かさないこと。			
5 教科書			
はりきゅう実技〈基礎編〉〈医道の日本社〉			
6 参考書			
鍼灸医療安全ガイドライン〈医歯薬出版株式会社〉			
7 成績評価の方法			
最終評価が60％以上で単位を認定する。 授業で課した課題をこなしたものに対して受験資格を与える。			
8 その他			